

2010.7.30「何故、政治とカネの問題を追及するのか」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

本日 7 月 30 日から、参議院選挙後初の臨時国会が 8 月 6 日までの 8 日間の日程で開会されることになりました。本日は天皇陛下をお迎えして開会式が行われました。来週の月曜日と火曜日は衆議院での予算委員会、水曜日と木曜日は参議院での予算委員会が行われる予定であります。私も水曜日の午後から、参議院の予算委員会で質問に立つ予定です。

私の質問する内容は、政治とカネの問題が中心になりますが、皆様方の中には「またその問題か」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。

私は平成 21 年 4 月の参議院決算委員会で、初めて小沢氏の不動産所得に関しての政治資金問題や鳩山氏の偽装献金問題などを質問して以来、現在までずっと追及してきました。支持者から「頑張っているね」という応援もある一方で、「西田さんはこの問題ばかりだね。もっと政策的なことをやるべきじゃないの。」とおっしゃる方もいます。もちろん、応援してくださるかたの方が圧倒的に多いのですが、私自身も「またこの問題か」と思っていることも事実です。しかし、私が皆様方に申し上げたいのは、なぜこの政治とカネの問題を追及する必要があるのかということです。政治を行う上で政策が大切であることは事実ですが、いくら立派な政策やマニフェストを提示しても、マニフェストや政策以前に政治家自身が信用できないならば、いくら並べても意味がないわけで

す。現在民主党がしていることはまさにこういうことです。彼らは野党のときに、マニフェストで多くの政策を約束していました。子ども手当や高速道路の無料化もそうですが、彼らが野党時代に我々がその政策の財源をどうするのかと追及しても、「我々が政権を取れば、無駄を無くせば実現できる」と発言し続けてきたのです。ところが、政権を取った途端に財源無き政策であったことが露呈してしまいました。そして挙げ句の果てが、唐突な消費税増税論です。民主党が言っていることは、自分達の都合のいい話ばかりです。問題はそれが過去に発言してきたことと、どういう整合性があるのかということです。その事について説明責任すら果たそうとしません。これでは政策の議論をしても全く意味がありません。

同じように彼らは野党の時、政治とカネの問題については特に厳しく追及していました。鳩山氏らは「もし秘書が犯罪を起こしたとすれば、それは政治家自身の犯罪であるから私もすぐに議員バッジを外す」と言い切っていたのです。ところが、まさに自分の秘書が犯罪を犯しても、バッジを外すどころか、一度は議員辞職すると言っておきながら選挙が終われば、やっぱり「まだ考え直します」です。そもそも、鳩山さんの問題は、秘書の犯罪ではなくて、総理自身の脱税という大きな犯罪ではないかという疑惑が持たれているのです。それについて、民主党も総理自身もしっかりとした説明がなされていません。小沢氏に関しては、秘書が逮捕されていますが、検察審査会ではこれも小沢さんの犯

罪だとされています。起訴相当という議決までされているのに、未だに民主党からこれについて説明責任も果たされてもいないし、果たそうともしてないわけです。彼らの政治とカネの問題は、自分達の言ってきたこととやってきたことが余りにも違うということです。そこをしっかりと国民に知ってもらわなければならないのです。「無駄を無くせ」と言ってみたかとおもえば、その次は「財政再建だ」と、次々に方向性の違う政策を発表しています。それぞれは必要なことかもしれないけれど、では、今まで言ってきたことはどうなるのか、そこが整理されない限り、信用できません。政治家は「自分達の都合の良いことだけしか言わない、政治家はそういうものだ」と国民が思ってしまえば、もう政治に対する信頼はなくなってしまうのです。そういうことにならないためにも、私はこの問題について民主党は姿勢を正して、国民の前で事実を明らかにすべきだと思うのです。そして、民主党が本当に公の政党、公党としての自覚があるのならば、自分達自身で小沢・鳩山両氏の問題を国民に説明すべきではないでしょうか。それができないのであれば、民主党は「公党」ではなくて、小沢さんや鳩山さん、そして自分達の政権を守るためだけの私の党、「私党」であると言わざるを得ません。そのことを多くの国民に伝えるためにも、来週の参議院予算委員会で頑張りたいと思います。これはNHKで中継されると思いますので、皆様方のご支援よろしく願いいたします。

ありがとうございました。